

とううん

NO.13 2021年 10月 21日
J R 東海 労 東京 運輸 所 分会
責任者 今 城 敬 一
編集 集 教 宣 部

ミス！事故は懲罰処分ではなくせない！

人はミスを犯すがその後がどうかです！

新幹線の乗務員は、常にミス・事故と表裏一体です

しかし、会社は基本動作をしていればミス・事故はないと言う

ミス・事故に対しての懲罰が重すぎる！

懲罰的超難問試験では、事故防止にならない！

ミス・事故の再試験というより懲罰試験である！

会社は、ミス・事故をした場合、日勤・事情聴取・再試験！その後は長期日勤にさせ、超難問な試験をさせています。ミス・事故したこととはほとんど関係ない大変難しい試験内容です。なぜ？超難問試験をさせるのでしょうか？これまでと同様再試験は、ミス・事故に対しての懲罰的ないじめ、パワハラではありませんか。懲罰的な超難問試験をさせることによって、ミス・事故を起こさせないと言う事なのだろうか？このような事であれば、当事者を苦しめるだけです。懲罰による超難問試験をさせ、結果によって職場から追い出されてしまいます。このような会社の姿勢、体質では良い会社にはなりません。

過去においては、ミス・事故を起こしたものに対して、管理者たちが周りを囲み、暴言・罵声などで苦しめていました。犯罪者扱いしてとことん追い詰める状況でした。精神的にも肉体的にも追い詰められていました。超難問の試験を当時は90点以上取らなければ合格にならないのです。しかし、超難問な試験をクリアしたとしても（90点合格まで3～4年間フォロー試験が続いた人も何人かいました）ミス・事故を繰り返えしてしまう人もいます。

それは、ミス・事故とは直接関係ないような試験であり、ミス・事故の再発防止とはかけ離れているからです。また、ミス・事故の事情聴取ではなく犯罪者の取調べです。暴力的な言葉やいたわることが微塵もない取調べでした。

不合格の場合はその都度、厳しい取調べが続き体調を崩す方も多くいました。その当時の当直助役の朝の点呼は「社員に舐められるな、歯を見せるな！」と言う喚呼を連呼するものでした。恐怖を感じる異常な職場でした。このような恐怖を与え、ミス・事故を起こしてしまった乗務員に対して、罵声・暴言・パワハラなどの追及を繰り返えしてきた管理者達が、この会社では何故か出世して行くようです。それがまかり通っていた職場の管理者達の出世コースのようでした。

いまではパワハラとして犯罪となり得る事ではないでしょうか。

新幹線乗務員は、数多くの難関をクリアしてなってきたのですから、一度のミス・事故で超難問な試験をさせ、結果によって運転士・車掌を剥奪するべきではありません。

再試験は労働組合や人によって差別・区別するべきではありません！

安全最優先！とは乗務員に責任追及・プレッシャーをかけない会社です！

難問な再試験・長期日勤教育・懲罰処分では安全は守れない！

責任追及では事故は防げない！原因究明で事故防止！